あ ゆ み

昭和37年　ポンプ車

美　唄　市　消　防　の　沿　革

明治

36年８月　私設沼貝消防組設立　初代組頭　鈴木武四郎
乙号型腕用ポンプ　１台

37．10　私設沼貝消防組が公立沼貝消防組に改組　組員36名

40．５　美唄市街地大火(22棟20戸焼失)

大正

５．５　私立美唄炭山消防組結成　組員30名　腕用ポンプ１台

６．７　私立美唄炭山消防組を公立我路消防組に改称
沼貝消防組に部制を設ける。
第１部　沼貝市街地
第２部　峰延市街地　部員28名

10．12　沼貝消防組第３部発足
第３部　茶志内市街地　部員13名　７号腕用ポンプ１台

11．３　沼貝消防組第４部発足
第４部　沼貝市街地　部員26名　腕用ポンプ１台

15．６　沼貝町が美唄町と改称される。(6,141世帯・32,240人)
沼貝消防組を美唄消防組に改称

昭和

２．９　美唄消防組第２部が独立し峰延消防組設立　組員25名
美唄消防組第４部を第２部に改称
美唄消防組第４部発足
第４部　美唄市街地　部員25名　腕用ポンプ１台

４．５　我路市街地大火　焼失204戸

６．12　我路市街地大火　焼失76戸

９．６　美唄消防組第５部発足
第５部　美唄市街地　部員25名　腕用ポンプ１台

９．９　美唄消防組本部庁舎新築(現大通西１条南１丁目)に木造２階建
美唄消防組第５代組頭　故海老名広吉氏の遺志により庁舎横に火の見鉄骨望楼81尺(24.5m)１基建造

11．５　消防ポンプ自動車１台購入　美唄消防組に配備

12．５　美唄市街地大火　焼失372戸、損害額180万円、罹災者1,900名

13. 4　消防団常備２名配備

13. 10　美唄市街地の大火で美唄消防組本部庁舎焼失したため、同敷地に同本部庁舎新築木造モルタル２階建　延365㎡

14. 4　警防団令(勅令)施行　美唄消防組を美唄警防団に再編成
　１本部　15分団　927名
炭鉱地区に三井美唄警防団・三菱美唄警防団が同時に発足

18. 4　美唄警防団15分団を統廃合し11分団に再編成

19. 4　消防団常備７名増員(計９名)　第２分団に４名配備

22. 4　消防団令(勅令)施行　各警防団を消防団に改称

22. 8　美唄消防団６分団４部制に再編成　団員299名
我路消防団発足　団員75名

22. 12　消防組織法(法律第226号)公布　消防組織は自治体消防として独立する。

23. 4　望楼監視勤務開始

23. 7　消防法(法律第186号)公布

23. 10　水槽付消防ポンプ自動車購入　美唄消防団に配備

24. 2　美唄・南美唄・峰延・光珠内・茶志内・沼南・三井美唄・三菱美唄・三井新美唄・日東三菱茶志内・我路の11団編成となる。　団員1,024名

消防装備	消防ポンプ自動車	11台
	水槽付消防ポンプ自動車	１台
	手びきガソリンポンプ	12台
	腕用ポンプ	16台
	防火水槽	63基
	消火栓	395基

25. 4　市制施行により美唄市となる。(16,356世帯、87,095人)
消防団常備が美唄市消防本部・消防署として発足　消防職員定員30名
　初代消防長　前田富蔵、初代署長　深尾三郎

25. 9　北海道消防ポンプ操法競技大会に初出場

26. 2　茶志内消防団　中村分団発足　団員20名

26. 3　三井新美唄消防団解団　同地域を三井美唄消防団管轄区域に編入
　美唄消防　10団　1,055名

26. 4　消防職員　定員38名
茶志内出張所開設　職員２名配置

26. 7　北海道消防ポンプ操法競技大会出場　Ｂ級　第３位入賞

26. 9　美唄駅前大火　焼失21戸、損害額3,950万円

27. 4　消防職員　定員40名
27. 6　峰延機関員出張所開設　職員１名配置
27. 7　美唄消防団創立50周年記念式典挙行
27. 9　南美唄機関員出張所開設　職員１名配置
28. 4　消防職員　定員45名
　　美唄市街地大火　焼失41戸　損害額2,620万円
29. 4　第一機関員出張所開設　職員１名配置
29. 12　南美唄市街大火　焼失28戸　損害額１億900万円
31. 4　美唄消防４団に再編成

美唄消防団	11分団	273名
三菱美唄消防団	３分団	325名
三井美唄消防団		120名
三菱茶志内消防団		50名

31. 6　旭機関員出張所開設　職員１名配置
31. 7　美唄市消防火災出動要綱制定
31. 11　美唄消防団我路分団発足　団員60名
32. 7　茶志内出張所を茶志内機関員出張所に改称　職員１名配置
32. 10　沼南分団詰所新築
32. 12　美唄消防団上美唄分団発足　団員22名
33. 3　日東市街大火　焼失29戸　損害額800万円
33. 4　消防職員　定員48名
35. 8　日本損害保険協会から普通消防ポンプ自動車の寄贈を受け署に配備
36. 8　美唄消防団東明分団発足　団員30名
36. 9　東明機関員出張所開設　職員１名配置
　　消防無線固定局開設　基地局～１、移動局～２
38. 2　美唄市火災予防条例(条例１号)公布
39. 4　消防職員　定員55名
　　三井美唄消防団解団　美唄消防団に編入し三井分団発足　団員38名
　　三井出張所開設　職員４名配置
39. 5　我路分遣所を出張所に改称
40. 10　三菱美唄消防団を東美唄消防団に改称　団員180名
40. 11　東美唄出張所開設　職員２名配置
41. 8　集中豪雨(降水量249㎜)　死傷者４名
　　家屋、河川、道路、橋梁の損壊　被害総額23億8,240万円

42. 3　三菱茶志内消防団解団　同地域を美唄消防団茶志内分団管轄区域に編入
昭和41年８月豪雨水防活動に対し、美唄消防団が建設大臣表彰受賞
42. 9　美唄市消防本部救急業務実施規定制定　救急業務開始
43. 3　南美唄出張所・分団詰所新築
美唄消防団条例の一部改正　団員定員566名とする。
43. 4　三井分団を解団　同地域を南美唄分団管轄区域に編入
三井出張所廃止
43. 11　救急車１台購入　署に配備
45. 11　日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け中央分団に配備
46. 1　寄宿舎火災(焼失59㎡)　焼死者10名、負傷者１名
46. 2　美唄市消防本部・署庁舎新築(現西１条北６丁目１番30号)
鉄筋コンクリート２階建　延1,058㎡
消防無線更新　基地局～１、移動局～５
望楼勤務廃止
46. 7　消防職員　定員58名
47. 3　川西栄三団長が消防庁長官功労章受賞
47. 7　東美唄消防団解団　同地域を美唄消防団我路分団管轄区域に編入
47. 8　東美唄出張所廃止
47. 10　化学車１台購入　署に配備
相次ぐ炭鉱閉山のため一市一団となり美唄市消防団と改称
１団　14分団　386名
48. 2　美唄市消防団が優良消防団として、日本消防協会より表彰旗授与される。
48. 4　峰延機関員出張所を出張所に改称　職員３名配置
48. 8　北海道消防操法大会出場(中央分団)
48. 10　消防本部・署機構改革、消防本部２課４係・１署制とする。
第一機関員出張所・旭機関員出張所閉鎖
49. 1　出初式においてキヤリ行進を始める。
49. 7　日本船舶振興会から小型ポンプ付積載車の寄贈を受け進徳分団に配備
49. 8　光珠内分団詰所新築
50. 4　大型移動水槽車(10ｔ)１台購入　署に配備
50. 8　台風６号集中豪雨(降水量200㎜)
石狩川越水により市内中河川氾濫　被害総額33億3,000万円
北海道救助技術指導会に初参加
空知信用金庫より救急車の寄贈を受け署に配備(２台体制)

51. 2　昭和50年８月　台風６号水防活動に対し、美唄市消防団が建設大臣表彰受賞
51. 7　我路分団解団、同地域を東明分団管轄区域に編入
51. 10　美唄市消防団条例及び規則一部改正　13分団　定員312名
51. 12　消防本部、署機構改革、消防本部３課６係・１署制とする。
52. 10　茶志内出張所・分団詰所新築
53. 7　北海道消防操法大会出場(峰延分団)
53. 10　15m級屈折はしご付消防ポンプ自動車１台購入　署に配備
東明機関員出張所を出張所に改称　職員３名配置
54. 6　南美唄機関員出張所を出張所に改称　職員２名配置
54. 10　東明出張所・分団詰所新築
55. 11　署に通信一斉指令装置導入
55. 12　旭分団詰所新築
56. 8　集中豪雨(降水量426.8㎜)
市内中河川氾濫　被害総額41億5,700万円
56. 9　日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け、署に配備
56. 10　消防無線更新　基地局～１、移動局～９、携帯～２
署に消防気象観測装置導入
56. 11　８月集中豪雨水防活動により美唄市消防団が建設大臣表彰受賞
57. 7　孫在永氏から災害救助用アルミボート３艘及び救命胴衣50着の寄贈を受ける。
57. 9　昭和56年８月集中豪雨水防活動により美唄市消防団が内閣総理大臣表彰受賞
58. 4　第一分団詰所新築(福祉会館に併設)
58. 9　美唄市消防団条例及び規則一部改正　13分団　定員285名
60. 4　各出張所を分遣所に改称
60. 11　上美唄分団詰所新築(福祉会館に併設)
61. 2　美唄市消防安全管理規程制定
61. 9　進徳分団詰所新築
62. 11　北海道共済農業協同組合連合会から救急自動車１台の寄贈を受け、署に配備
62. 12　中村分団詰所新築(中村地区コミュニティ消防センター)
63. 4　消防本部・署機構改革、消防本部２課４係・１署６係制とする。
我路分遣所廃止、連絡所とする。
東明分団我路部廃止
63. 9　北海道救急医療情報システム運用開始
63. 12　大富分団詰所新築(大富地区コミュニティ消防センター)

平成

元．４　消防本部・署機構改革、消防本部２課５係・１署８係制とする。

２．12　災害弱者緊急通報システム運用開始

峰延分遣所・分団詰所新築(峰延地区コミュニティ消防センター)

３．４　北海道広域消防相互応援協定を締結

３．６　西美唄保育所幼年消防クラブを結成

４．６　茶志内双葉・進徳保育園幼年消防クラブを結成

４．７　峰延・光珠内・茶志内・中村みのり保育所幼年消防クラブを結成

４．11　南美唄分遣所・分団詰所新築(南美唄地区コミュニティ消防センター)

大坪喜代太氏からマイクロバスの寄贈を受け、「美消号」と命名する。

美唄市名誉消防団員規程制定

５．３　水槽付消防ポンプ自動車(6,500Ｌ)１台購入　署に配備

６．８　日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車(2,000Ｌ)の寄贈を受け、

峰延分団に配備

６．11　美唄市消防団キヤリ保存会結成

７．３　我路連絡所廃止

７．７　北海道消防操法訓練大会出場(上美唄分団　小型ポンプ操法の部)

８．３　国道12号線拡幅工事に伴い消防庁舎の増改築工事を完了する。

鉄筋コンクリート・一部鉄骨造り２階建　1,890.02㎡

消防緊急通信指令施設Ｉ型・消防団緊急伝達システム導入

高規格救急自動車１台購入　４月から運用開始する。

８．９　消防庁舎増改築に伴う外溝整備工事が完了する。

８．11　消防団で女性消防団員８名採用

大坪喜代太氏から美唄市消防団キヤリ保存会に太鼓５張の寄贈を受け、

「美消太鼓」と命名する。

８．12　消防長の退職に伴い12月19日付で助役　遠藤徳次が消防長事務取扱となる。

９．３　大坪喜代太団長が消防庁長官功労章受賞

９．４　機構改革により１署10係制及び東明・南美唄・峰延分遣所に所長を置く。

10．２　30m級はしご付消防自動車１台購入　署に配備

10．11　美唄市消防団が優良消防団として、北海道より表彰旗授与される。

10．12　沼南分団詰所新築(沼南地区コミュニティ消防センター)

11．３　茶志内分遣所廃止

12．４　有珠山噴火に伴い北海道広域消防相互応援協定によりポンプ隊１隊５名派遣

する。

13. 3　救助工作車(Ⅱ型)1台購入　署に配置
14. 3　美唄市消防本部、美唄市消防団、消防庁長官より竿頭綬授与される。
光珠内分団拓北部廃止
15. 4　機構改革　消防署を２課制とし課長補佐を置く。
15. 7　大坪喜代太氏からマイクロバスの寄贈を受ける。
15. 8　財団法人日本宝くじ協会から訓練指導車「けすゾウくん」の寄贈を受ける。
15. 10　十勝沖地震による出光興産(株)北海道製油所タンク火災に伴い北海道広域消防相互応援協定により化学車隊１隊15名派遣する。
16. 6　美唄消防公設100年記念式典挙行
16. 9　台風18号強風被害(市内最高風速37.5m)　被害総額10億6,091万円
17. 6　美唄市消防団キヤリ保存会10周年記念式典挙行
18. 11　化学消防ポンプ自動車(Ⅱ型)1台購入　署に配置
19. 3　美唄市消防本部、美唄市消防団、消防庁長官より表彰旗授与される。
矢部正義団長が消防庁長官功労章受賞
19. 4　美唄市消防団規則一部改正　９分団　定員285名
中央分団・旭分団・東明分団・南美唄分団・光珠内分団・峰延分団
西美唄分団・中村分団・茶志内分団
19. 9　東明分遣所廃止
19. 10　大通西１条南２丁目建物火災で職員２名殉職
19. 11　美唄市消防葬挙行
20. 3　日本消防協会より防災指導車の交付を受け、署に配置

歴　代　消　防　長

代　数	階　級	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初　代	消防司令長	前　田　富　蔵	昭和25年４月１日	昭和29年９月25日
第２代	消防司令長	佐　藤　始　馬	昭和29年９月25日	昭和43年５月１日
第３代	消防司令長	大　窪　隆　義	昭和43年５月１日	昭和44年４月１日
第４代	消防司令長	平　泉　利　正	昭和44年４月１日	昭和48年３月31日
第５代	消防司令長	石　田　正　雄	昭和48年４月５日	昭和51年12月20日
第６代	消　防　監	仁　村　清　次	昭和51年12月21日	昭和58年４月１日
第７代	消　防　監	会　木　　猛	昭和58年４月１日	昭和61年３月31日
第８代	消　防　監	井　坂　　進	昭和61年４月１日	昭和63年３月31日
第９代	消　防　監	藤　崎　秀　明	昭和63年４月１日	平成７年３月31日
第10代	消　防　監	伊　藤　順　一	平成７年４月１日	平成８年12月８日
第11代	消　防　監	木　内　汎　司	平成９年４月１日	平成13年３月31日
第12代	消　防　監	中　明　廣　幸	平成13年４月１日	平成15年３月31日
第13代	消防司令長	佐　藤　賢　治	平成15年４月１日	

※平成18年４月階級規則改正により消防長の階級を消防監から消防司令長とする。

歴　代　消　防　署　長

代　数	階　級	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初　代	消防司令	深　尾　三　郎	昭和25年４月１日	昭和40年５月10日
第２代	消防司令	田　村　勝　視	昭和40年６月１日	昭和44年４月１日
第３代	消防司令	平　泉　利　正	昭和44年４月１日	昭和48年３月31日
第４代	消防司令	石　田　正　雄	昭和48年４月５日	昭和48年９月30日
第５代	消防司令	仁　村　清　次	昭和48年10月１日	昭和53年３月31日
第６代	消防司令長	会　木　　猛	昭和53年４月１日	昭和58年３月31日
第７代	消防司令長	井　坂　　進	昭和58年４月１日	昭和61年３月31日
第８代	消防司令長	藤　崎　秀　明	昭和61年４月１日	昭和63年３月31日
第９代	消防司令長	落　合　幸　作	昭和63年４月１日	平成４年３月31日
第10代	消防司令長	伊　藤　順　一	平成４年４月１日	平成７年３月31日
第11代	消防司令長	木　内　汎　司	平成７年４月１日	平成９年３月31日
第12代	消防司令長	中　明　廣　幸	平成９年４月１日	平成13年３月31日
第13代	消防司令長	佐　藤　賢　治	平成13年４月１日	平成15年３月31日
第14代	消防司令	清　水　史　夫	平成15年４月１日	

※平成18年４月階級規則改正により署長の階級を消防司令長から消防司令とする。

歴代組頭・団長

名　称	代　数	氏　名	就任年月日	退任年月日
沼貝消防組	初　代	鈴　木　武四郎	明治37年10月21日	明治38年
沼貝消防組	第２代	吉　積　儀　蔵	明治38年	明治42年６月
沼貝消防組	第３代	谷　本　秋　次	明治42年６月	明治43年５月
沼貝消防組	第４代	山　田　与三松	明治43年５月	明治45年
沼貝消防組	第５代	海老名　広　吉	明治45年	大正８年８月
沼貝消防組	第６代	野　村　甚太郎	大正８年８月	大正15年６月
美唄消防組	初　代	野　村　甚太郎	大正15年６月	大正15年10月
美唄消防組	第２代	山　本　寅　吉	大正15年10月	昭和12年12月
美唄消防組	第３代	池　田　千　治	昭和12年12月	昭和14年４月１日
美唄警防団	初　代	池　田　千　治	昭和14年４月１日	昭和18年３月14日
美唄警防団	第２代	奥　山　政次郎	昭和18年４月	昭和22年８月１日
美唄消防団	初　代	前　田　富　蔵	昭和22年８月１日	昭和25年３月31日
美唄消防団	第２代	小　松　智　一	昭和25年７月１日	昭和31年３月31日
美唄消防団	第３代	川　西　栄　三	昭和31年６月１日	昭和47年10月14日
美唄市消防団	初　代	川　西　栄　三	昭和47年10月14日	昭和54年10月20日
美唄市消防団	第２代	伊　藤　誠　市	昭和54年10月20日	昭和62年３月31日
美唄市消防団	第３代	大　坪　喜代太	昭和62年４月１日	平成13年３月31日
美唄市消防団	第４代	矢　部　正　義	平成13年４月１日	

美 唄 市 名 誉 消 防 団 員

号　数	氏　　名	名誉称号贈呈年月日	備　　考
1	伊　藤　誠　市	平成５年１月７日	平成５年７月13日逝去
2	鈴　木　三　郎	平成５年１月７日	
3	大　坪　喜代太	平成13年７月８日	
4	田　村　光　治	平成15年７月13日	
5	土　本　　了	平成20年７月13日	

叙　勲　者　名　簿

受賞年月日	氏　　名	勲章の種類	摘　　要
昭和43年４月29日	藤　田　　岩	勲七等瑞宝章	元中央分団長
昭和45年７月28日	佐　藤　始　馬	従五位勲四等瑞宝章	元消防長
昭和50年４月29日 昭和60年９月18日	川　西　栄　三	勲五等双光旭日章 従五位勲四等瑞宝章	元消防団長
昭和52年４月29日	福　井　　勇	勲六等瑞宝章	元消防司令補
昭和52年11月３日 昭和57年４月10日	深　尾　三　郎	勲五等瑞宝章 従五位	元消防署長
昭和54年４月29日	古　泉　吉　郎	勲七等瑞宝章	元茶志内副分団長
昭和55年11月３日	山　田　盛　明	勲六等単光旭日章	元消防副団長
昭和57年４月29日	山　崎　政　典	勲七等青色桐葉章	元茶志内分団長
昭和58年４月29日	好　川　政　勝	勲七等青色桐葉章	元茶志内分団長
昭和63年11月３日	伊　藤　誠　市	勲五等瑞宝章	元消防団長
平成４年４月29日 平成13年４月10日	久保田　俊　男	勲六等単光旭日章 従七位	元消防司令
平成８年11月３日	武　田　　忠	勲六等瑞宝章	元消防司令
平成10年５月20日	工　藤　恭　雄	勲六等単光旭日章 正七位	元消防司令
平成11年２月21日	道　山　　守	勲六等単光旭日章 正七位	元消防司令
平成13年４月29日	中　野　興　吉	勲六等瑞宝章	元東明分団長
平成15年４月29日	大　坪　喜代太	勲五等双光旭日章	元消防団長
平成15年11月３日	安　藤　富　夫	瑞宝単光章	元消防司令
平成16年４月29日	落　合　幸　作	瑞宝単光章	元消防司令長

叙　勲　者　名　簿

受賞年月日	氏　　名	勲章の種類	摘　　要
平成16年11月３日	田　村　光　治	瑞宝単光章	元消防副団長
平成16年11月３日 平成19年１月30日	林　　幸　夫	瑞宝単光章 正七位	元消防司令
平成17年４月29日	佐　藤　幸　一	瑞宝単光章	元消防司令補
平成17年11月３日	武　藤　　猛	瑞宝単光章	元消防司令
平成18年４月29日	河　野　悦　雄	瑞宝単光章	元消防司令
平成18年11月３日	河　奥　利　章	瑞宝単光章	元消防司令補
平成19年４月29日	會　木　　猛	瑞宝双光章	元消防監
平成19年４月29日	川　原　武　男	瑞宝単光章	元消防司令
平成19年４月29日	高　倉　芳　昭	瑞宝単光章	元消防司令補
平成19年10月27日	北　清　幸　司	旭日単光章	元消防司令
平成19年10月27日	山　岸　信　貴	旭日単光章	元消防士長
平成19年11月３日	井　坂　　進	瑞宝双光章	元消防監
平成20年４月29日	藤　崎　秀　明	瑞宝双光章	元消防監
平成20年11月３日	木　内　汎　司	瑞宝双光章	元消防監